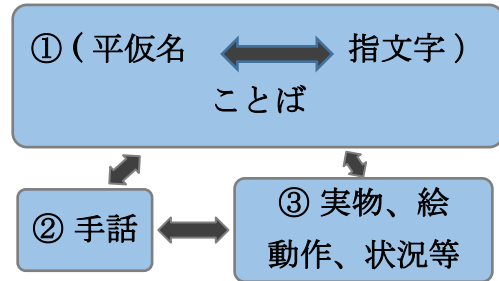


# ろう重複児の指文字の指導～「たのしい指文字」を使って

山口南総合支援学校 古谷弘美

本児は、4月当初、種類の同じもの同士（文字と文字、指文字と指文字、手話と手話、絵と絵など）の照合はできますが、(図2)のような①の中の平仮名と指文字や、①と②、①と③、②と③の間（種類の違うもの同士）では行き来ができず、対応が難しかったです。

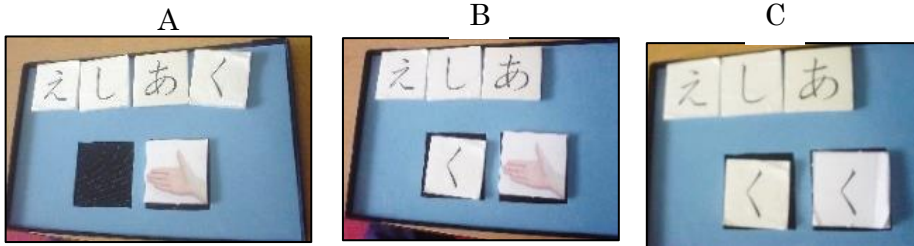


(手話や指文字の模倣はしますが、自発的な手話表出は「ください」「お願い」だけでした。)

(図2) 手話、ことば、絵等の関係

4月から自立活動を週3回担当することになりました。そこで、少し難しいとは思いつつも、平仮名と指文字写真の照合の指導を始めてみました。種類の違うもの同士の照合です。

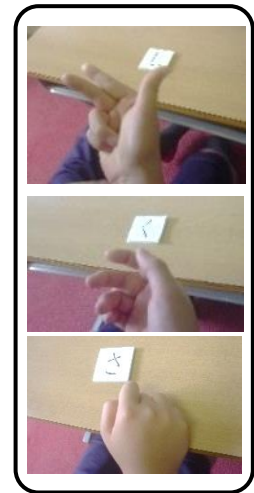
## 1 初めての指文字表現



指文字写真に合う平仮名を選択します (A, B)。指文字写真を裏返して合っているかを自分で確認します (C)。そして、指文字表現をします。

初めての文字は答えを必ず**定位置（一番左側）に置く**ようにして、選択するうちに平仮名と指文字の対応ができるように導いたところ、6月6日（月）に平仮名を見て指文字を初めて出すことができました。

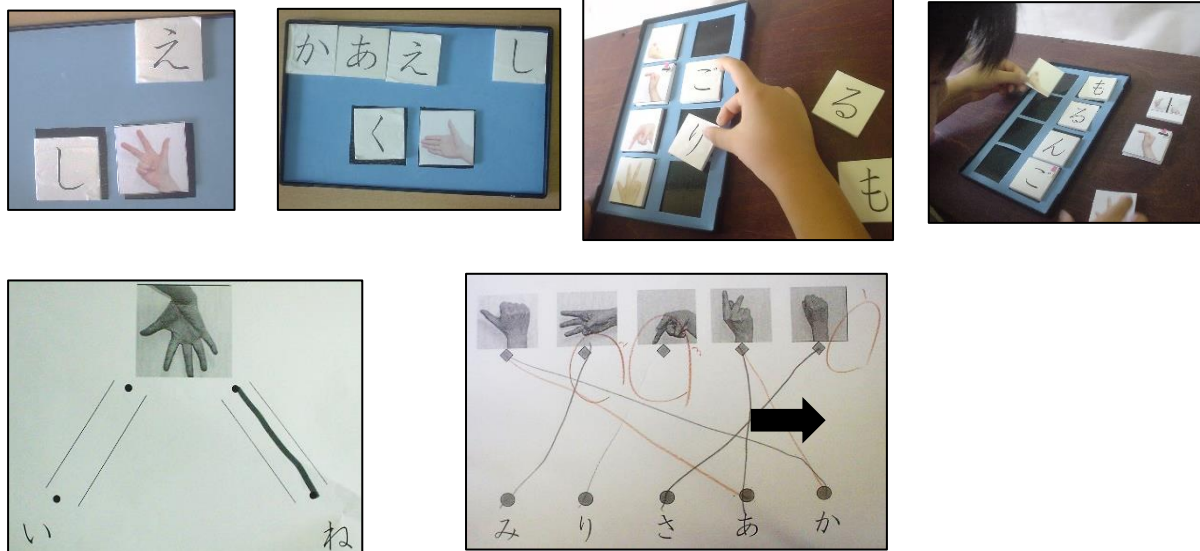
「し」「く」「さ」



### 《指導方法》

新出文字「さ」を学習する時、既習文字の「し」と一緒に提示すると、「し」ではないという考えから、「さ」を選択することができました (6/8)。そこで、この**本人の思考の仕方**を利用して学習を進めました。

## 2 教材・教具



指文字を覚えるにつれ、カードの照合だけでなく、プリント学習もできるようになりました。どちらも二者択一方式から数を増やすことで、反復学習が可能となり、定着が進みました。

## 3 「たのしいゆびもじ」

9月21日、指文字写真や平仮名カードを出すと、「たのしいゆびもじ」（机の前に以前から掲示していました）を見て、自分からその文字を探す様子が見られました。

そこで、学習中の指文字や平仮名をその都度「たのしいゆびもじ」表の中から一緒に探して「あった。」と指さしをしていると、自分でも確認して指さすようになりました。同じものを見つけたら、「アハハハハ・・・」と笑って喜んだのには驚きました。

また、『も』はどこ。（「も」の指文字+「どこ」の手話）と尋ねると、「たのしいゆびもじ」を見て探し、指さすようになりました。指さしが不確実で自発的に出すことがなかったので、すごい進歩です。この頃、他の場面でも指さしをよくするようになりました。

カードの照合の時に探す。



平仮名を探す。



プリントをする時も探す。



#### 4 指導結果（～11月）

学習した平仮名は次の通りです。学級での授業や生活場面における指導と相まって指文字で表すことが自然となり、自分から指文字表現をすることも多くなりました。まだ確実に覚えていないものもあるので、今後も学級と連携を図りながら反復練習をし、定着を図りたいと思います。



ば	だ	ざ	が	ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ				
び	ち	じ	ぎ							り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い
ぶ	づ	ず	ぐ							る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
べ	で	ぜ	げ							れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え
ぼ	ど	ぞ	ご							る	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

平仮名と指文字という種類の違う記号の置き換えができるようになったということと、「たのしいゆびもじ」の中から目的の字や指文字を探す（指さし行動の定着も）という行動が表れたことが大きな成果でした。

\*なお、本児は、下記の「たのしいゆびもじ」自分指文字編（全国早期支援研究協議会発行）を用いています。

